

令和4年度 第6回 校長「語らいサロン」

「教員の『働き方改革』の現状」について

日時：令和5年2月4日（土）9：00～10：00

場所：集会室

参加者数 20名

川中子 おはようございます。土曜日の朝早く、お集まりくださりありがとうございます。昨日の参加予定の連絡では、8名が参加で30名くらいが「関心がある」とお答えいただいたんですが、こんなにたくさんの方に集まっていたにありがとうございます。今日のテーマはですね、「教員の勤務状況の課題 『働き方改革』の現状について」お話ししたいと思いますので、あまりお子さんの、直接のお話ではないんですけど、お子さんにとっても関係のある、先生たちの話をさせていたいただきたいと思います。

それでは、まず、簡単に自己紹介をお願いします。

Aさん 1年生、3年生の娘のいるAです。

Bさん 2年生のBの父です。

Cさん Cです。

Dさん 2年生のDです。ちょうど会社でも、人事プロジェクトと言って働き方改革のプロジェクトに携わっているんですが、教員とは違うかもしれませんが参考にさせていただきます。

川中子 ありがとうございます。ぜひ、後でお話を伺えればと思います。

Eさん 5年生のEです。

Fさん 6年生と3年生のFです。

Gさん 6年生と1年生のGの母です。

Hさん 6年生と4年生のHの母です。

Iさん 2年のIの母です。

Jさん 卒業したOBで、民生児童委員のJです。よろしくをお願いします。

Kさん 2年のKの母です。今回のテーマは、私も保育士をしているんですけど、保育士も現場で人手不足で、最近はネガティブな報道が多く、いろいろ注目されていますけれど、働き方改革というテーマはすごく興味があります。よろしくをお願いします。

Lさん 5年と2年のLの母です。

Mさん 5年と2年のMの母です。5年3組にN先生が育児休暇を取ると言うことで、いろいろお話を伺えたらと思います。よろしくをお願いします。

Nさん 4年のNの母です。主人が前におりまして、主人に働き方改革をぜひ意識してほしいなと思ひまして、一緒に参加させていただきます。よろしくをお願いします。

Oさん 6年と3年のOの母です。

Pさん すみません、遅くなりました。子どもが発表してましたので、5年と2年のPと申します。

Qさん 1年と3年のQの母です。

川中子 よろしくをお願いします。いやー、このテーマなのであまり集まらないかなと思っていましたが、こんなにたくさんの方に集まっていたにありがとうございます。

教員の勤務状況、働き方改革っていうのは、ここ数年非常に言われていて、私が着任して、令和元年度くらいからですかね。教員の働き方改革というのが言われるようになってきたのですが、そのあとコロナにもなりまして、教員だけでなくいろんな仕事が大変な状況になっていますよね。日本はどんどん高齢化が進んでいて、働く人の人口がどんどん減っている。子どもは生まれないので、この後、どんどんどんどん減っていくだろうと。で、これから、日本の経済を支えていくためには、人が圧倒的に足りなくなっていくことが予想されていて、そのためにどうするかというと、外国の人を連れてきて外国の人に働いてもらおうという試算もなされているそうです。昨日、テレビでもちょっと見ていたんですが、外国の方が日本に来て日本で働いていく中で、やはり外国の人は日本の文化になじむのが難しいので、その中でメンタルを病んでしまったりして。昨日NHKの番組で見ていたのは、メンタルを病んだ外国人のお医者さんが、日本にはいないそうなんです。東京に二人しかいないそうです。外国人をカウンセリングしたり、精神科のお医者さんが。昨日出ていたお医者さんは、通訳の方を入れて診察をするんですが、メンタルヘルスの問題では非常に難しいですよね。日本人同士でだって、ちゃんと話しはできないですし、私もそうですが、自分の気持ちを上手に話せないじゃないですか。それをお医者さんとやり取りするのは非常に難しいので、大変な問題だと。これから外国人労働者が増えていくと、こういう問題はもっと増えていくだろうという話でした。

今日は、先生たちがどういう働き方なのかっていうことを、ぜひ保護者の皆さんにも知っていただきたいと思います。

先生が足りない？！

まず、レジュメに載せた日本経済新聞1月16日朝刊の記事「先生の質が保てない」というものです。「2000校で欠員」「1年で3割増し」…先生が足りないという状況が始まっているということです。正確には分からないのですが、区内25校のうち半数近い学校で実際に欠員が生じていて、先生がいらない学校があります。どうしているかというと、副校長先生などがその担任をやっています。で、副校長は副校長の仕事だけで、普通の先生の1.何倍くらいの仕事をやっていますので、それに担任の仕事が加わると、つまり一人で3人分くらいの仕事をやっているという状況が、区内の学校でも起こっています。全国的に見ると、こういう状況で、非常にひどいことになっている。教員不足、この載せたものを見て分かるように、いかに先生になり手がなくなると倍率が下がっているか分かると思います。

何でこんなことになってしまっているかは、いろいろな理由があるとは思いますが、まあ、私はあまり好きな表現じゃありませんが「ブラック」な働き方、なんて言われていますよね。先生たちの勤務が良くないのではないかな。働きがいというものはあったとしても、それに見合うものが欠けているのではないかなど

と言われています。

皆さんもご存じ「尾木ママ」って方がいますが、あの方、いろんなことを言うので、必ずしも先生たちにとって良いことばかり言っているわけではないのですが、この先生が1月29日にラジオの放送でしゃべった内容があります。昨年9月の段階で、東京都の小学校の先生が130人不足している。4月の段階では、50人だった。スタートしたときに先生がいらない学校が50校あったということですね。これも異常ですが、夏休み明けには130校にもなってしまう。まあ、1校で二人やめたというのもあるかもしれませんが一概には言えませんが、まあ、東京都は学校がたくさんありますので、130校というのはたいした数ではない、とも言えますけど、お子さんを預けている保護者や、お子さんにとっては、先生がいらない教室っていうのは、ちょっと考えられないことじゃないですか。実際、こういうことが起こってしまっています。で、どうしてかな？というところ、この尾木ママは「個人的な意見ですが」と前置きして、「教育実習について、教員にはならないと決めてしまう人が多い。」と。これまでは、教育実習について、先生になろうと思う人が多かったんですが、今は教育実習について現場を見たら、「これは大変だ！」という、教員にはならない。「過労死ライン」と言われる残業80時間を超えている教員は小学校で3割、中学校で6割いるといわれています。また、精神が病んでしまい学校を1ヶ月以上休んでいる教員は全国で約1万人。もはや深刻、を超えた状況です。」と。さっきの新聞記事も細かく読んでいくと、もうこれは日本が減る前兆だというようなことが書かれていました。学校の先生の残業はカウントしにくいんだけど、ということで「1971年に1週間で2時間の残業、月に8時間の残業手当を「調整手当」として支給することになった。しかし、現在は時間外労働が約10倍に膨れ上がっています。政府も残業代について検討を始めようとしています。早く議論してほしいです。」我々も公務員ですから、公務員の給料の算出の仕方は決まっています。就業の時間と残業の時間というのは分けて考えているのですが、先生の残業というのは、確かに何かよくわからないんですよ。やらなければならないことではないけれど、やっていることというのが、ものすごく多いですよね、先生は。例えば、こういうプリントを配ったりするのも、やらなくたっていいじゃないですか。教科書がある、ノートがあるのだから。先生たちは子どもにわかりやすいようにって、一生懸命プリントを作って配ります。だから、どこで線を引くかが難しいので、1971年ころに、先生たちが残業を付けられないというのはいわゆるから、その分最初から給料に上乗せしておこう、というのが決まったのだそうです。うわさで聞いたのですが、田中角栄さんという人がいて、うわさなので本当かどうかわかりませんが、田中角栄さんの妻が教員だったそうで、その人の給料を聞いたらびっくりするくらい安かったの、そのあと教員の給料は一気に2倍になった、と（笑）。

で、まあ、こんな状況。そして、OECDというところが調査した2018年の報告、教員の環境国際比較。これで見てもうと、これは小学校の先生ですが、例えば、ベルギーの先生は41時間、プエノスアイレスの先生は36.9時間、デンマークの先生は38時間なんて書いてあって、ちょっと多いのはイギリスで48時間。で、少ないところだと31時間なんてところもありますね。日本は、というと、54時間と圧倒的に労働時間が長い。たくさん働いている、ってことですね。中学校の先生はもっと長く働いていて。小学校の先生は、一応子どもを帰した後、自分たちの仕事ができるんですが、中学校の先生はそれから部活があって、6時くらいまでやって、それから自分の仕事を始めますので、私も大体9時、10時は当たり前で済んだか。最後の頃は、うちに帰るのが11時過ぎてるのは当たり前でした。家が遠いものだから。という状況で、非常に長く働いている。そして、「長く働いている」のが「いい先生」みたいな、へんな勘違いもありました。今、これは本当にダメだなと思います。

三吾小の勤務形態

で、じゃあ、三吾小の先生たちはどんな感じなのかなあとというと、勤務時間が、一応こういう風になっています。8時15分から4時45分が勤務時間になっています。で、うち、45分間の休憩がこの中に入ることになっているんですね。1時5分から20分、というお昼休みの時間ですね。そこで15分とって、3時45分から4時15分まで30分とって。本当はこういうとり方をすべきじゃないんですけど。普通の会社に行っている人だったら、お昼休みがあって、外に行ってご飯食べてきたりしていますよね。その代わり、勤務時間が7時間45分になっていて、そして45分間は休憩をとるということになっているんですが、たぶん、日本全国、学校で休憩をとっている先生というのはいないと思います。おそらく、0分です。実質、子どもがいるような時間帯に休憩がとれるかと言ったら、0分です。へたとすると、トイレにも行けないです。私も何度かトイレ行かなくてこまったことがありました。ご飯は子どもと一緒に食べてますから、休



憩かっていったら、休憩ではありません。あつちで牛乳こぼしたり、こつちで吐いたりする子がいますから。それをやるので、先生たちは真っ先にご飯を食べてしまう。早食いは職業病のようなものです。一応、まあ、こういう勤務体系になっています。

公立の義務教育諸学校の教育職員の給与等に関する特別措置法(給特法)

それで、さっき尾木ママが言った、「給特法」というやつですが、これがあるから「先生は、残業は当たり前なんだよ」って昔よく言われたんですが、それがさっき言ったように、時間外、休日に来てても残業代を支給しない。先生たちは土日に来て仕事をして、お金にはなりません。今、必ず来て仕事している先生はいますね。うしろの、〇先生なんかは「土曜クラブ」と言って、ちゃんと来るようになってます。自分でそういう「働き方」にしていますから。その分はお金が出ません。月額給料の4%を上乗せして支給する。これがさっき尾木ママが言った、その当時先生たちにインタビューしたら、「どれくらい一週間に残業するんだい?」「一週間に2時間くらいですかね?」「それじゃ月8時間だから、それは全体の4%」と決まったんです。今は、その8時間が、この過労死ラインの80時間を超えていますので、10倍になっているんですよ! 4%じゃなくて、40%残業代がついてないとおかしい状況になっちゃっているんですけど。で、試しに調べてみたんですが、今年の初任給が197300円です。東京都。この197300円に、教員の場合は、7892円。月額。残業代が付いています。昨日、初任者の先生が、私がこれをやっているときに、7時半くらいかな? まだ仕事をしていたので、「給料197300円で、残業代いくら出てるか知ってる?」って聞いて、知りませんというから「7800円くらいだよ。1か月7800円。もう、やめて帰ったほうがいいよ!」って言ったら、少しして帰りましたね(笑)。でも、本当に、我々はお金で働いているんじゃないんですよ。で、こういうことをあまり考えてないですね、先生って。残業代が出ないからやめる、って考えをしている人に会ったことはないですね。もちろん、そういう問題を指摘していくことは大事ですけど、それに、甘えてきたらどうな、と。で、この今年の令和4年度の先生たちの時間外勤務は、今、こうやって出るようになってます。我々も、働き方改革の一環で、タイムカードのようなものを使うようになってます。これで、役所としては、この学校のこの先生がこれだけ働いているっていうのを把握できるようになってます。で、この表の赤いところは、我々は月勤務外時間が45時間以内になるように、と言われてはいるんですが、それを超えている人たちが。4月、9月、10月、11月、と。けっこう忙しい時の状況です。4月は年度初めで一番忙しい時ですね。いろんなものを作って、新しくしなければいけませんから。9月は通知表の作成をして、10月は体育学習発表会、11月は音楽学習発表会がありました。その平均が黄色になっていて、45を超えている人が黄色になっています。ということは、今、「教諭」っていう先生がこれだけいるんですけど、このうち半数以上の先生がやっぱり黄色になっちゃう。主任教諭っていう先生は、教諭よりも仕事をたくさんやっている先生たちですけど、その先生たちもこういう状況です。ここにfとかmとか書いてあるのは、男女のことです。うちの職場でいうと、まあ、小学校はこういう傾向が高いのかな?、遅くまで残っている先生はほとんど女の先生です。男の先生は、基本的に早く帰っている。女の先生は明日の準備を徹底的にやってからじゃないと帰れないっていう方が多いですね。その女の先生たちの半分くらいはお子さんがある先生で、おさんはうちにいるんですけど、多分、夕飯なんかは一緒に食べられないだろうな、と。ご家庭でどう工夫をされているのか。非常に深刻な問題で、特にこの、赤い字になっているところは、過労死っていう時間、過労死ラインを超えてしまっている。過労死ラインそのものは60時間くらいといわれているんですが、80を超えると、本当に危ないということです。それが、85、6とか90。いくつとかいう先生が何人かいます。で、今、役所から、こういう先生には直接連絡が来るようになっていて、「大丈夫ですか? 疲れていませんか?」という連絡が私たちを通してくるようになってます。1日4時間の時間外勤務をやると20日間で80時間になりますよね。1日4時間で20日間で80時間。先生たちの仕事として、1日4時間時間外に働いて、っていうのはまったく、ごく普通の状況ですね。これを、例えば、2時間で終わらせる人っていうのは、そうとう要領のいい、ベテランの人かな? で、学校の推奨時間45時間以内。7時には帰らなければだめですよ、っていうこと。



で、教員の勤務時間は8時15分から4時45分で、休憩はとれていません。残業だけじゃなくて、前。早く来て仕事している人もいます。7時に来て、8時15分まで仕事する。終わって、4時45分以降に9時までやっている先生も結構います。実は、この中には、土日の時間は含まれていないんですよ! 土曜、日曜に来て働いている先生は、この中にもいるんですね。例えば養護のM先生。

560何人の子どもの書類を一人で、健康診断やっただ、全部一人でチェックして、書いて、やっているんです。それを年に何回かやっています。異常な状況だって、わかりますよね。勤務時間中は、健康診断をやっているんです。で、子どもは病気になるたりケガしたと行って来ているんです。その手当てをする。その子どもたちが帰った後に、560何人分の書類を一つ一つチェックして、何日までやらなければならないってことになっています。当然、残業するし、土日も来なければ間に合いません。我々も、とにかく何とかしようということで、いろいろ手伝ってくれる人を探したり、声かけたりするんですけど。でも、一人職の先生はそういう方が多いですし、担任の先生たちも自分でやる、やらないはあるんですけど、大方はこれに近いような感じになっているかな。

2月2日の〇〇先生の勤務

で、今日、皆さんに配布したこのプリント。裏っかわに独占インタビューをしたものがあるんですけど、2月2日の夜7時の職員室の状況です。先生たちは、半分くらい残っていますかね。この、残っている先生たちの何人かに声をかけて、ちょっとインタビューしたのもですね。初任者の女性の先生は、朝7時45分に出勤して、8時15分までの間に、今日渡す宿題の印刷をして、ショコラの世話をし、教室にメッセージを書いています。「おはよう!みんな元気?」というメッセージを、とっても素敵な絵を毎朝書いていますね。で、8時15分になると子どもたちがやってきます。そこから、1時間目から6時間目まで、ずーっと授業で、給食の時間めずっと指導しています。休憩時間は0分です。3時20分位に子どもたちが下校して。そのあと何人かのお子さんを残して補習をやっています。で、子どもたちが全員4時くらいに帰って、この日は学年会をやる日です。で、学年の先生たちと色々な打ち合わせをしています。で、初任者の宣誓ですから、学年の先生からいろいろ教わったりもするので、教材研究も含む学年会になっていて、それが大体、6時半くらいまでやっていたか。そのあと、初任者研修の報告書っていうのを書かなければならぬので、これは役所に出さなければならぬものなのでやって、そのあと「今日は何時までに帰る目標ですか」と聞いたら、7時に帰りますと言って、この先生は頑張って7時15分に退勤しました。

二人目、2年目の男性の先生です。7時40分に出勤して、メールの確認。コクで出欠の確認ですね。今日休む子がいないかな、と確認。そのあと、テストの丸付けをやっていたと。で、1時間目から6時間目までは授業満杯。給食指導もあって休憩時間は0です。この先生もみんな帰った後何人が残して補習。そのあと、学年会をやって、2年次研修の報告書を作成。都教委に報告書を作成。目標20時に帰ると言っていたけれど、帰ったのは8時35分でした。

2年目の女性の先生。7時10分に来て、テストの丸付け。週の指導計画の作成。それで子どもが来て、帰るまで同じ状況。そのあと、学年会やって、明日の準備の教材研究を始めたのが6時半くらい。で、2年次研修の報告書を書かなければ。目標は20時くらいに帰りますと言っていたけれど、20時35分位退勤。

で、最後に、主任教諭男性。これは、うちの学校では一番勤務が上手にできる、優れた働き方ができる先生ですが、この日はちょっと遅くまで働くというのを決めていたような日で、7時半に出勤されて、この日は副校長先生と校内研究の打ち合わせ。勤務時間前なのに、この先生と副校長先生は会議をやっているという!

自分の仕事ではなく、校務をやっているという。そして、卒業生台帳を作成。今日は学年会があるからその準備をしていた。主任の先生ですから、こういうかんじで、他の教諭の先生とは違ってきますよね。1時間目から6時間目まで授業ですが、高学年の先生なので教科担任をしていますから、「空き時間」と言われている時間があります。自分が授業がない時間。2時間あったそうなんですが、その2時間はいろいろな、自分が抱えている主任教諭の仕事をして。給食を子どもたちと食べて、やっぱり、休憩は0です。学年会をやった。この学年はみんな慣れた先生なので、手際よく学年会を終わらせて、そのあとは自分たちの仕事に割り当てている。この先生は、珍しく、7時を目標に働きます、と言っていたのですが、7時に終わらせて、7時15分に帰っていきました。その下の、在勤時間と書いてあるところですが、学校にどれだけいたかっていうと11時間30分とか、12時間55分とか書いてありますが、そこから勤務時間の7時間45分を引くとどうなるかという、3時間45分、5時間10分、5時間40分、4時間と書いてあります。で、先生たちは1月に何日学校に来たかという、土曜日もありますから、21日です。20日と計算してもいいんですが、そうするとこれはもう、78時間45分、108時間、119時間、84時間という感じですね。これが、毎日こうであるというわけではありませんから、必ずしもこの数値にはならないかもしれませんが、こうやって計算してみると、この「過労死ライン」って言うてる80時間を超えてはいけませんよ、なんていうのは、軽く超えてしまうような状況です。

だけど、これのうち、どこを削ることができる? 先生たちに聞いても、これは無理なんですよ! どこも削れないんです。だから、つまり、これは無理だな、と。今、言っていることをかなえるのは不可能だなと、改めてこうやって出してみたらわかりました。どうしたら解消できるかって言ったら、これは人を増やすしかないですね。同じ業務をやっていくとしたら、人を2倍にしていかなければ。2倍にして、ちょうどいいくらいです。45時間くらいになるかなって感じですよ、これ? だけど、2倍には、絶対できませんから。まあ、ミサイル買ったりのをやめてくれれば、もしかしたら少しは可能になるかもしれませんが。私は、本当にそう思っているんですけど。

先生の担うべき職務とは?

で、こういうことで、先生たちが危ないぞ。このままいくと日本が崩壊するぞ、っていうことは、識者の人たちはわかっているんですよ。で、何とかしなければという話し合いもずいぶん前から進んでいて、こんな風に、学校がやるべき仕事とやらないでいい仕事と分けなければいけないね、という話が少しずつ出てきて、やっとこういうのが改善されてきています。少しずつ。これは、イギリスがやったやつですが、イギリスで先生がやるべき仕事というのと、先生がやるべきでない、先生じゃなくてもできる仕事というのを分けていこうという取り組みを表にして。これを参考に、日本でもやっといこうというのが始まっています。コロナで、2か月お休みになりましたよね?あの時。みんな日本中の人たちが気が付

いたんですが、学校の先生が何をやってたのかっていうことが日本中にわかったんです。これも、学校の先生がやってたのか。これも学校の先生がやってたのか。あの時はっきりわかったということですね。で、みんなこういうことはやっているんですね、先生たちは。本当に。ある方が書いてくれたのは、「子どもを守るためならさすまたをもって不審者を退治」こんなことは全員の先生がやっているんです。これの訓練も、実際にやっています。それから救急救命の訓練も毎年やっています。

で、これは、一人の普通の人ですから。一人の人がこなす業務としては、あまりにも特殊なものが多すぎるんじゃないか。もちろん、先生だけが大変な思いをしているわけではありません。一般の普通の会社に勤めている方もみんなそれぞれ大変な思いをされていると思います。先生の特異さっていうのは、こういう、何でも屋さんになってしまっているというところはあるか。私も教員になりたての時、涙が出たことがありました。なんだ、これ？ 教員はスーパーマンじゃなくちゃならないのか？

で、この働き方改革の話が、元々は副校長の業務改善というところから始まりました。副校長が死にそうだった、というのがありまして。でも、手山先生の時には大分改善されてきていますか。私が副校長をやったころはかなりひどかった感じで。まあ、だいたい、土日の休みがない、ですかね。秋なんて、9月に入ってから11月まで休みが一回もなかった、とか。そして、朝6時半に来て、帰りが9時半とか10時半というのが当たり前でした。そういう状況を何とかしようと言うことで、学校にいる先生が副校長の仕事を少しできるようにしようとか、副校長を補佐するスタッフとしてこういう人をつけようということが始まって、今年度、ようやく「副校長補佐」という方が来てくれることになりました。Kさんが来てくれてから、手山先生もずいぶんゆっくり仕事ができるようになった。ゆっくり、ではなくて、一つ一つの仕事に専念できるようになりました。もう、専念できないんですよ！ こういう感じ（同時に3つ、4つの仕事を進めている）でやってる感じで仕事しているんです！ 「子どもが～です！」って呼ばれてあっちに行って、戻ってくるとデスクの上に書類がたまっていたりします。そういう状況が私がやってたころはよくあって、机の上に置かれたファイルを見ると心が折れるんですよ。「あー、これ。これからやるのか？！」って。だから一日でも休もうものなら大変なことになるんですよ。メールも、こんなに来ますから。開くだけだつてすごく時間がかかります。

で、まあ、こういう方が来てくれるようになって、少し良くなってきました。あと、先生たちのためにはスクール・サポート・スタッフ、SSSというのが数年前からきてくれることになって。簡単に言うと、先生の秘書のような方がきてくれて、ありとあらゆる事務作業を手伝ってくれることになりました。教材のこれがいくつ必要なのをお願いします、このプリント何時までに何枚印刷しておいてくれますか、と言ってやっていただいています。Sさんが来てくださっていますが、この方がまた、スーパーSSSで。うちの学校はスーパー〇〇さんが多いんですよ！先生もそうですが、それ以外のスタッフが「スーパー支援員さん」とか「スーパーSSSさん」とか。素晴らしい方で、Kさんもそうですけど。本当に働き方はずいぶん良くなってきています。ただ、その、今現状が、これ（2月2日の教職員勤務状況）と言うことです。前はもっとひどかった。ここ3、4年、私たちもがんばって言っていますから、先生たちも大分意識して何とか早く帰ろうとはしているんですが、それでもこういう状況ですね。

はい。というのが、先生たちの現状だと言うことをお話させていただきました。もう、一方的におしやべりさせていただきませんが、いかがでしょうか？

もちろん、そんなのは、私たちの仕事と変わりないよ、というご意見もあるかもしれませんが、まあ、先生なんて子どもの相手してるだけなんだから、たいしたことないでしょう？なんて思っている方もいらっしゃるかもしれません。

先生たちがやりたい仕事は、子どものための仕事なんです。子どものために、明日の授業をがんばりたい、っていうのを、本当は一生懸命やりたいんですよ。だけど、それをやっている時間が余り取れないくらい、いろんな、雑務があります。それと、夕方電話していただくとか分かるんですけど、夕方は学校の電話はつながらない。学校で起こったことについて家庭に連絡している先生が何人もいます。何も無い日というのは、基本的にはありません。560人を超える学校ですから。あつちでぶつかったなんて言うのはしょっちゅう起こります。まあ、その程度で済めばいいんですが、すまないことも結構起こりますので、〇〇ちゃんと〇〇ちゃんがけんかして怪我した、とか、どこどこからおこちで骨折した、なんていうこともあります。そういうことがあると、先生たちは放課後電話をしたり、あ、いろいろと不満を抱えた保護者の方もいますから、電話で話をしたりとかもありますね。だいたい、そういう電話は、10分とかでは終わりませんで、一回とると、まあ早くて40分、50分。長いと2時間近く電話していたりというのは、結構ありまして、そういう状況になる場合はだいたい副校長先生が対応しています。そういうことは、まあ、日常茶飯事というほどではありませんが、まあたまにありますか。で、その間の仕事は、他にやらなければならない仕事はできませんから、なるべく先生たちじゃなくて、我々の方で苦情みたいのは受け付けるようにはしているんですけど。

保護者の皆さんからしてみたら、お子さんの先生が、こんなくたびれた先生では困りますよね？ 元気で、明るく、元気で、いろんなことに気力が充実していて、「あっ、あそこの子が困っているかな？」というのにぱっと気がつける。そういうのを求めますよね。でも実際は結構くたくたな先生が多くて、「ああ、疲れた」と思っているときは、具合悪い子がいても気がつかなくなったりすることもあるかもしれません。で、やっぱりこれは、みんなで何とかしないとイケないな、と。で、何とかするのは誰の責任だ？と言ったら、やっぱりそれは管理職の責任じゃないかな。私たちが、働き方改革を進めてくださいと、役所から言われたりしますが、何とかしたいんですけれど、先生たちが何ができるだろう？ 帰れ、帰れって言ったって、先生は帰って仕事するだけ。昔は、帰って仕事する人がすごく多かったんですが、今はパソコンを使うようになって、家ではできない仕事ばかりになってしまいました。個人情報扱っていることが多いので。今、大分いろんなことがすすんで、クラウド上で仕事ができるようになってきているところもあるんですけど、〇先生が先日東京都聞いてきたそうなんです、「それって、うち帰ってやっているってことじゃないか？」って（笑）。早くは帰っているけど。今、在宅勤務というのが企業ではかなりできるようになっていますけど、教員の仕事はできる部分もありますが、基本的にはできない。

今日は、幼稚園の先生も保育園の先生も来ていますから、同じように子どもを扱っている仕事は、同じ状況で。特に保育園も、最近、いろんなことが報道されていますけれど、あれって、こういう過酷な状況の中で起こっているんですよ。楽している人たちが起こしているんじゃないんですよ。もう、注意力が落ちてくる状況で、ああいう過失みたいなことが起こっているんじゃないかな。だから、

ひどい先生だなあ、なんて、一概に報道されているようには言えないだろうなと思います。基本的に、みんな子どものためにと思って仕事している人たちで、そんなに悪い人ではないはず。で、いかがでしょうか？ 何か、感じるところがあれば、はい、お願いします。

Aさん うちの子もたちはよく、宿題忘れり、忘れ物したりして、担任の先生から指導のお電話をいただくんですが、やっぱり、こういうのをみると、相当な準備をして、その思いが空回りして、担任の先生は悲しいんだなってことが非常によく分かりました。私は実は、さっき尾木ママが出たと思うんですけど、法政大学の補助教員みたいなことをやっていて、尾木ママのSSSをやっていたんですよ。尾木ママの教具を自動化するというのをやっていました。あの人は教員だったけど、今は外野からがやがや言っているだけなので、先生は気にしないでいいと思います（笑）。やっぱり、今の話しもそうですし、前々回の時の話しもそうですが、学校だけではできないところがあるので、保護者の方とか地域が力を貸してやっていくしかない。リソースが足りないんで、その辺を、足りないのはちょっと仕方ないので、僕もできることを考えていかなと思いました。



川中子 ありがとうございます！ 本当にありがたいです。それではJさん、お願いします。

学校にも専門スタッフを

Jさん 常々、学校の先生方の環境っていうのは、会社勤めをしている身からすると、すごく何か、全然考え方が違っていて感じる事が多くて。会社でいえば、例えば、社長がいて、部長がいて、課長がいて、トップダウンで命令権があるんですけど、学校の先生の中では、命令権っていうのがあまりないっていうのを、娘が入学したときに初めて知って、校長先生でも、先生にこうしてもらいたいっていうことがあっても、お願いベースでしかできない。会社であれば、社長がこうしろ！っていうのは、ぜったいそうしなければいけないんですが、そういう権限がないっていうのをビックリしたことがありました。ちょっと離れてから先生方の様子を拝見すると、今日伺った話でもそうなんですけど、事務作業がすごく多くなって。会社では、例えば、営業は営業の人がやっているし、その営業がやったことの報告書は、管理部門があって、経理に流す報告書なんかは管理部門が請け負って事務仕事をやっている、と分かれているんですけど、学校の先生は営業をやって、管理部門の仕事をし、っていうのが分かったかなっていう感じです。できればそういうのをちょっと分けて、やっていただければいいなと常々思っていて、副校長先生が学校施設の予約する受付をされていたので、もうすごくおかしな思いながら。これは事務だとか学校管理っていう人がいれば、そういうことはしなくていいのに。本当に子どもたちに専念できるのになって常々思っていたので、このような改革もすすんでいただければいいなと。それと、こういうのを知らせていただく機会があるっていうのはとても貴重なことだと思って。会社勤務しかしたことのない保護者だったら、全然知らない世界であるので、伝えることもすごく大事な事だと思って、今日の機会はすごくありがたく思っております。こちらでもできることがあれば、サポートしたいと思っております。ありがとうございます。

川中子 ありがとうございます。いきいきスクールで子どもたちがお世話になっていきますので、本当にそういう形でできることを合わせていければいいことができるなと思います。

Jさんのお話で、今日一つ大事なことを言い忘れてたことを思い出しました。先生たちがやっている仕事の中で、私、どうしても許せないのは。許せないって、やらせてるんですけど！（笑）あの、会計の処理をやっているんですよ。これが大変ですよ。お金の仕事って、やっぱり事務さんがやるべきですよね？ 本当に大変なんです。一人一人からお金集めて。前は手作業でやっていたから、それだけは銀行引き落としに変えさせていただきましたが。業者さんに払う、それを先生たちがやっている。で、教材を買った、くらいまではまだいいんです。給食費のやつとか、一人一人の分を入力して、引き落としをするようなことをやっていたりして。で、5、6年生になると宿泊行事があるので、そこに行くときのお金を集めて、こっちから補助金が出て、この人はもうちょっと補助が出るので…って。普通の事務さんがやったら大変な仕事を、一般の先生がやっているんですよ。で、間違えたりするじゃないですか。先生ですから。でも、間違えちゃダメじゃないですか。私、先生たちに、お金のことは絶対に間違えるなって言ってるんです。1円でも間違えちゃいけないって。お金は信用を失う一番大きなものですから。でも、かわいそうすぎる仕事で。これだけは何とかならないかと、何年前から事務さんともやってるんですけど。事務さんが「それは私たちの仕事じゃありません。」って感じになっていて。区の方で決まっているのか何か。区の方もそれじゃ困るので何とかしようががんばってはくれているんですけど。今、ここは事務室に事務さんがいなくなりましたので。共同事務とって、吾嬬第二中学校を中心にした7校ぐらいの事務さんが共同事務室にいて、7校分の事務処

理をやっています。事務さんがいないんです。事務の補助をしてくれる方がいて、事務とのやり取りをしてきています。だから、人を雇えばそういうこともできると思うんですが、雇うのは難しいようで。とにかく、会計だけでも先生たちを解放してあげたいなと思っています。6年生のM先生が、今年日光に行ったんですが会計処理をやって、始まってから終わるまで、何回書類のやり取りをしたか。3ヶ月くらいかかってました。やっている間に、失敗したと役所にもう一度提出するのでもう一回はんこを押して下さい、なんてやっていました。まだ終わらないんだなあ、という、今度はこっちの補助金の話なんです、って。非常に複雑なことをやっているんですね。そんなことをやっているんだしたら、明日の授業の準備をやってもらいたいですよね。本当に先生たちにやらされていることってというのは、理不尽なことが結構あります。これだけでも何とかしたい。何とかありませんかね？ 校長会でも何とかしようと、来年度あたりには事務会と話しをつけようって話をしているところですが、もう一方くらいいかがですか？

スタッフを増やして、専用窓口を

Dさん 今日、いろいろお話を聞いて、やはり子どもが入ったら、学校ってところのイメージというのは、ドラマだったり、報道だったりであつたんですけど、さっきおっしゃったように、いわゆる一般企業とはまったく違うっていう中で、逆に保護者としても、例えば、先生にいつ連絡したらいいんだろうとか、例えば会計だったり、お金の問題とかも先生に言うしかないんですけど。どこに言ったらいいんだろうって、逆に言うと、一般企業だったら、問い合わせ先の経理の人とか、窓口があって、そこに問い合わせればいってというのが。何時から何時までに問い合わせればいって。営業時間とかがわかりやすいんですけど、そこに学校は当てはまらないので、いつ問い合わせたらいいんだろう、先生は忙しいので。ちょっと遠慮しちゃったりとか、そのお金の問題だったりも、この担当の人に言えばいいですよっていうのがあつたら、わかりやすいのかなと。保護者の側からしても、やはりそういった態勢であつたりするとわかりやすいし、先生に全部じゃなくて、担当がはっきりしていた方が、保護者側としてもメリットがあるのかなって思っています。逆に分かりづらかったりとか、先生が捕まらなかつたらできなかつたりとかがあるので。先生・学校側だけの問題じゃなくて、自分事として、先生たちの環境を整えていくっていうのは大事なことなかなって思います。

川中子 ありがとうございます。本当にそのあたりが曖昧で、それを担任がみな背負ってしまっているところが問題ですね。我々の方で改善しなければいけないこともあるんだなと感じますね。ありがとうございます。では、Fさん。

職員の異動について

Fさん 皆さんのおっしゃるとおりで、この学校だけ教科担任制なんですね。墨田区でも教科担任制をしている学校はないって聞いて。同僚の人が、区内の小学校なんですけど、話しが合わないなと思ったら、えっ？って。素晴らしいことで。やっぱり、事務的な作業も先生たちから外していただけたらいいと思うんですけど。ちょっと気になったのは、川中子先生が入って、すごい改革をいろいろしてくれて、働き方改革も着任された当初から取り組まれていて、素晴らしいと思っていたんですけど。人事異動ってあるじゃないですか。先生が、慣れた先生がかわるわけですよ！ 例えば、O先生が来ないなくなったら、O先生の穴を育てるのは、相当大変なわけですよ。何年前も、結構、古くからの先生が抜かれて、新しい先生が入ってこられたけれど、大丈夫なのかな？とすごく心配して。先生はすごく改革的なんですけど、他の学校から、ぜんぜん川中子校長先生のやり方に慣れていない先生が来て、それを教えて、それも引継とかの負担があつて、段取りも違うのかなと。大変なんだろうな、って思いました。それは、企業でも一緒に、ベテランとかすごくできる人が抜けるとんやわんやになって。うまいことローテーション？ もちろん教員の異動とか、入れ替えも必要ですけど、ごっそり行かれると厳しいなっていう印象があるので、うまいことできないものかなと思います。

川中子 本当にそれは、大きな問題なんですよ。ただ、長くいるとその弊害もあるということで、東京都としては一応6年間勤務したら、他地区に異動する。その優秀な先生がここでずっといたら、この学校ばかり優秀な学校になってしまうので、この優秀な先生が次の学校も優秀にしてくれないと困るということでやっているという意図がある。我々も次の学校へ行くと、また違う環境になりますので、学ぶことも多いですね。自分の研修にもなるということで、そういう制度が取られている。まあ、管理する側としては、本当は慣れた人がやった方がやりやすいんですけど、人事異動はありますね。毎年数名ずつ人事異動、ではないので、教職員の着任の年によって、異動も多いときと少ないときがあります。一人しか異動しないときもあるし、5人、6人と異動になることもあります。それから、今若い先生が増えてきて、産休・育休にはいる先生もいるんですね。5年生のN先生は男性で初めて育児休暇を2週間取ることにしたんですけど、その間は先生が抜けるということになります。まあ、急に抜けるということではありませんが、準備をして抜けることになる。また、今はコロナで急に明日からお休みになる、ということもあります。先生たちが入れ替わるっていうのは、ちょっと大変なんですけど。とにかく、一番最初に見せたように、先生そのものがないので、そういうことが起こった場合、補充ができないって言うのが問題ですね。

それでは、もう時間も過ぎてしまいました。お話を聞いていただくとばかりになりましたが、じゃあ、保護者の方に何かしていただけないかっていうお話ではなかったんですけど。もし、今日来ていただいた方が、この話を聞いて、少しでも先生に同情していただけたら（笑）と。「うちの担任の先生も、がんばってんだな。」って分かっていたら、よかったかな。

先生にとってうれしいのは、残業代が40%つくことじゃなくて、子どもたちが笑顔になったり、保護者の方から「ありがとう！」って言われたりすることなんです！ 本当にそのためにやってるんですね、私たち。だから、ぜひ、応援してあげてください。

ありがとうございました。

